

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2690700055		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家梅津(1)		
所在地	京都市右京区梅津石灘町11番		
自己評価作成日	令和4年12月25日	評価結果市町村受理日	令和5年6月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JkyvsoCd=2690700055-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JkyvsoCd=2690700055-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	京都府京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1F
訪問調査日	令和5年4月6日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>一日2回のリハビリ体操 月に1回の全員参加型のレクリエーション</p>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>グループホームたのしい家梅津は、株式会社ケア21により、2010年11月に開設されました。利用者定員は18名(現在15名入居)で、平均年齢は89.7歳、平均介護度は3.3です。利用者の高齢化に伴い、活発に身体を動かすことが困難になっていますが、ラジオ体操・リハビリ体操を午前と午後を組み込み継続しています。月1回は大きめのイベントを計画し、レクリエーション要員としての職員を配置して楽しみも提供しています。介護支援専門員が介護計画を担当し、職員間での介護の統一を図っています。職員の気づきが増え、利用者が自立に向かう姿があります。コロナ禍でも職員は、本社からのオンライン研修を受講し、報告書やテストで理解度の確認を受け、学びを業務に生かしています。令和5年4月1日から管理者の異動があり、新体制で始動しています。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は皆で考えたものを掲示し、実践している	事業所では会社の経営理念に沿い、第30期ケア21ビジョン(11月更新)を作成している。生活向上リハビリ、認知症緩和、地域交流の3視点で行動計画5項目を立て事業展開している。事業所ビジョン認知症緩和には、「心に寄り添い、否定することなくその人の訴えを認める」や「時間をかけ、ゆっくりと人間関係を構築し、穏やかに生活していただく」がある。「利用者とのかかわり方が良くなり、馴染みの関係作りも上手くできています」と管理者の言葉がある。フロア会議や全体会議で振り返りをおこない、見直しや次年度につなげている。掲示は事務所内に行っているが、訪問者や全職員の見やすい場所への掲示が望まれる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のスーパーマーケットの利用等は行っているが、ご利用者が直接関わる機会はない	町内会には入会していない。児童館との交流も、まだ再開できていない。地域交流もいろいろ行動計画を立案しているが、困難な現状もある。運営推進会議メンバーの地域包括支援センター職員や民生委員からの情報を得て、地域包括支援センター主催の「認知症の人の徘徊模擬訓練」に参加し、認知症の役を職員が演じている。役所関係や警察官などの参加があった。地域包括支援センター主催の「オレンジカフェ」の開催の報告も届いており、職員が参加を予定している。順次利用者の参加も予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2022年度はこういった活動はできていない		

京都府 グループホームたのしい家梅津(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている		コロナ禍で書面での会議もおこなっていたが、現在は対面での会議である。利用者情報、行事、事故、ヒヤリ・ハットの報告があり、報告内容を充実させ、意見交換をしている。地域代表メンバーは民生委員のみであり、多忙で欠席されることもある。全家族、民生委員、地域包括支援センター職員に、会議の案内と議事録を郵送している。地域代表メンバーの増員を、事業所としても模索している。	前回からの課題であるが、地域代表メンバーが少ない。会議時には3人以上の地域代表メンバーに参加を得られるように、早急の取り組みを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に役所窓口へ訪問している	行政には、運営推進会議議事録や事故報告書を手渡しに出向いて、協力関係を築くよう努めている。サービス事業者連絡会はオンライン会議で参加している。他の会議も開催に合わせ参加していく予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修や委員会の開催で従業員への周知を図っている	身体拘束委員会は運営推進会議時(2か月ごと)におこなっている。マニュアルは作成している。会議内容は連絡ノートに挟み、職員も閲覧している。会社で年2回のオンライン研修もあり、職員全員が視聴し、報告書を提出している。職員は利用者の性格を理解しての対応を心掛けており、待ってもらったときは、後でその理由を説明している。人感センサーの設置時は、サービス担当者会議で利用者(家族)に説明し、施設サービス計画に加え、同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修や委員会の開催で従業員への周知を図っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な研修の開催で従業員への周知を図っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	都度、口頭説明や文書での説明を行い、ご納得いただいている		

京都府 グループホームたのしい家梅津(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的にアンケートの送付を行っている	利用者から日々聞き取った要望は、日常生活に反映させている。家族会は年1回開催していたが、まだ再開できていない。会社から全家族にアンケート調査(年1回)がある。その内容は、管理者とエリアマネージャーとの個人面談時に報告がある。意見に対する助言もある。当事業所職員に向けて「本人(利用者)が生き生きしている。長くやってもらっていると思う」や「職員も生き生きされている」との家族の感想が伝わっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にアンケートの送付を行っている	今期からフロア会議が(月1回)定期的に開催されている。全体会議(月1回)や必要にあわせてリーダー会議、個人面談(年1回)など、職員が意見を述べる機会が多い。フロア会議では一人ひとり発言を求めている。前回会議の振り返りや利用者の様子の内容、ケア検討をおこない、リハビリパンツから布パンツへの変更、利用者の席替え、日中業務の一部を夜間帯へ実施など検討している。個人面談時は個人目標を提出している。職員個々に会社からアンケート調査がある。必要に合わせエリアマネージャーから助言がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的なアンケートの実施による意見収集を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度、様々な研修が実施されている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の法人とは行っていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	しっかりと耳を傾け、本人様が困っていることや、今後の支援の在り方をカンファレンスしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	しっかりと耳を傾け、本人様やご家族様が困っていること、今後の支援の在り方をカンファレンスしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	多職種と連携し、様々な角度からの意見を提供している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ時間や感情を共有し、相互に信頼しあっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡や月に一度のお知らせなどで、入居者様の近況を報告するとともに、本人様に適した支援をとともに模索している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	こちらからその場に連れて行ってあげることにはできていないが、面会に来られる際には間を取り持つなどの支援をしている	現在面会は、検温で異常がなければ、マスク着用を条件に居室で30分の許可がある。利用者を含め4人までとしている。家族や仕事の同僚だった方、近所の方の訪問もある。外泊はまだ許可が下りていない。理美容は訪問を全員が利用している。利用者の高齢化が進み、趣味(将棋やぬり絵、生け花の水替えなど)を継続できなくなった方は多い。、風船バレーや机の上で玉転がしなどを、個別レクリエーションで支援している。担当介護士は利用者の近況を、毎月の「たのしい家梅津通信」に載せ、家族に知らせている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	従業員が間に入り、居心地にいい空間の提供に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	しっかりと耳を傾け、本人様が困っていることや、今後の支援の在り方をカンファレンスしている	利用者、家族の思いや暮らしの希望は、ケアチェック表の更新時や、サービス担当者会議時に聞きとっている。日々の関わりの中でも聞き、連絡ノートや介護記録に書き、職員間で情報を共有している。意思疎通が困難な方には、家族や職員からの情報を得て、表情や様子などから判断している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を本人様やご家族様、これまで使っておられた他のサービス事業所に話を聞き、本人様らしく生活していただけるよう支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人の課題に目を向け、できるだけ自立した生活を送っていただけるよう、月に1回のミーティングを開催している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	多職種に意見をもらい、計画に反映させている	カンファレンスは3か月ごとにおこない、モニタリングも実施している。ケアチェック表を用い、6か月ごとにアセスメントシートを更新している。介護課題の見直しや、サービス担当者会議を実施し、本人や家族から諸要望を聞き、説明など実施している。かかりつけ医からの情報も得ている。大腿骨頸部骨折手術後で、何事にも無気力になっている方について、職員の見守りや支援の中で、一つ一つできることを取り戻している事例がある。(介護計画で説明を受けた)	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ひやりはつとや事故報告なども用いて情報共有に努めている		

京都府 グループホームたのしい家梅津(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の課題に目を向け、個人個人の支援を徹底している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を積極的に取り入れながら施設での生活に生かしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一方的な情報の提供にならないようにご家族様に希望も聞いている	かかりつけ医の選択は、見学時に説明している。現在は、1名の利用者が入居前からのかかりつけ医を継続し、他の利用者は、提携クリニックを選択している。月2回の居宅療養管理指導を受けている。往診もあり、必要な方には月1回、精神科の訪問診療もある。受診時の情報は、月1回提携クリニックから家族に報告がある。希望者は歯科医の往診、歯科衛生士の口腔ケアを受けている。提携クリニックの医師の指示で、訪問マッサージ(歩行練習)を受けている方も多い。他科受診は基本的には家族が同行している。緊急時や夜間急変時は、管理者の応援がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療機関へのこまめな情報提供にて適切な医療を受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	こまめな連携によりスムーズな対応ができるよう努めている		

京都府 グループホームたのしい家梅津(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様にしっかりと説明し、ご理解を得たうえで書面での同意もいただいている	入居時に利用者、家族に「重度化対応、終末期対応に係る指針」で説明し、書面で同意を得ているが、その後変更されることはある。終末期が近づくと医師と家族、職員との話し合いを持ち、看取り時には医師との電話での連絡も頻回にある。点滴も受けている。コロナ禍でも、家族の面会が許可され、居室で利用者と過ごし、布団持参で泊まり込みの家族もある。この1年では、1人の看取りをおこなった。職員全員が本社の「看取りについて」のオンライン研修を受講し、テストを受け、報告書も提出している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練の実施をおこない、迅速に対応できるよう努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署にきていただき、定期的に訓練を受けている	火災の避難訓練は、年2回利用者も参加して実施している。2回とも消防署の立ち合いがあり、消火器を使って消火訓練、急変時の対応でAEDの使い方や心臓マッサージの指導も受けている。自然災害については「洪水及び土砂災害確保計画」のマニュアルを作成しているが、自然災害の訓練は実施していない。備蓄は、水、米、お粥、クッキー、簡易トイレ、衛生用品などが本社から準備され、賞味期限も本社でチェックし、交換している。BCP(事業継続計画)は作成している。	コロナ禍でもあり、地域の方の協力は得られていない。地域の方たちの協力を得られる体制づくりを期待します。また、自然災害を想定した訓練の実施も望みます。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の性格を判断し、プライドを傷付けないような言葉かけを心掛けている	接遇マナー、人権、コンプライアンス、虐待、身体拘束防止などの、本社のオンライン研修を受講し、研修後は報告書を作成し、テストも実施している。居室入室時は声をかけてから入り、呼称は「〇〇さん」と苗字で呼び、トイレや入浴時には扉を閉め、ドア近くで見守るなどの配慮をしている。職員の言動が気になる場合は、管理者が個別に話し合っている。不適切な言動については、研修の中でも伝えられている。	



京都府 グループホームたのしい家梅津(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己選択、決定が困難な方も、できるだけ本人の思いを汲み取りこちらで決めつけないよう配慮している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人本位の支援をこころがけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己選択、決定が困難な方も、できるだけ本人の思いを汲み取り本人らしいスタイルで過ごせるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍により、調理工程を減らしているため、準備をともに行うことはほぼないが、後片付けの参加は積極的にしていただけている	食事は3食とも業者から届けられ、職員は湯煎調理をしている。利用者は、食器やトレーを拭くなどの後片付けを手伝っている。普通食の方もあるが、刻み食やミキサー食の方も多く、とろみをつけての提供や、アレルギーへの対応もしている。クリスマス、節分、ひな祭りなどの行事食は業者からの献立に組み込まれているが、他にセレクトすることもある。誕生日には、ちらし寿司やケーキを職員が手作りしている。手作りのおやつは、ホットケーキ、クレープ、たこ焼、お好み焼などを作り、利用者に喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は小まめにチェックし、できるだけ本人様の嗜好に応じて提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	拒否のある方が中にはいらっしゃるが、時間をずらす等の工夫をして、毎食後に口腔ケアを行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄用品や方法の検討は各ミーティングにて行っている	職員は排泄記録により個別の排泄パターンを把握し、声かけやトイレ誘導をしている。観察と支援により、リハビリパンツから布パンツに変わった方も3名おられ、自立に向けての対応がおこなわれている。夜間は紙オムツの方はおられないが、ほとんどの方はリハビリパンツを使用している。ポータブルトイレを使用している方もおられる。	

京都府 グループホームたのしい家梅津(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンの把握をおこない、個別に対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ある程度の曜日や時間の決定はさせていたが、何よりも本人様が入りたいと思えるような声掛けや内容にしている	入浴は週2回を基本とし午前中におこない、お湯は1人ずつ変えている。お風呂の好きな方が多いが、入浴拒否の方もあり、声かけにより気分良く入られる時や、時間や日を変えることもある。柚子湯などの季節湯を提供することもある。入浴剤は肌の弱い方もあり使用していない。シャンプー、リンスなどは事業所で準備しているが、低刺激性のものを持参している方もいる。湯船に入れずシャワー浴の方もおられる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適宜休息をはさみ、夜もよく眠れるよう日中に体を動かす等の機会も提供している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	変化があればすぐに医療との連携をはかり、安全に生活して抱けるよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別のレクリエーションも実施している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日ではないが、外出レクの実施も行っている	歩いて散歩に行ける方はほとんどおられない。日常的には、玄関前のガレージで、外気浴、日光浴をしており、ベンチに座って花を眺めたりしている。ドライブはライトバンで出かけ、秋には紅葉、春にもお花見をして車から降りて写真を撮るなど楽しまれている。個別に1対1で車で買い物に出かけることもある。毎週家族と一緒にドライブに出かける方もおられる。	事業所外はほとんどの利用者が、車椅子を使用している現状があります。大変だとは思いますが、外気浴や日光浴も続けられることを望みます。

京都府 グループホームたのしい家梅津(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は個人でお金の保有をしている方はいらっしゃらない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様が行えない場合は、毎月のお知らせなどで代筆している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、従業員が手作りした壁飾りを飾ることにより季節感を味わっていただいている	リビングは大きい窓があり、明るく利用者がゆっくり過ごせる場所となっている。空気清浄機を設置し、換気に気をつけている。桜のちぎり絵を利用者と職員と一緒に製作し、壁に飾り季節感を出している。ラジオ体操、リハビリ体操を20分位かけ、毎日、午前と午後におこない、ボール遊び、風船バレーなどを行っているが、大きな動きはできない方が多い。利用者は日中、リビングで過ごすことが多く、テレビを見る、ソファでくつろぐ、利用者同士での会話、新聞を読むなど、それぞれである。掃除は朝と夜に職員が分担しておこない、清潔に留意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	適宜、ソファに座るなどして思い思いに過ごせるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の使い慣れたものや飾りなどを置き、快適に過ごしていただける空間づくりの工夫をしている	ドアの横に利用者の写真入りの表札がある。居室は、ベッド、エアコン、クローゼットが備え付けられている。家族には自宅で使い慣れた馴染みの物の持参を伝え、ポットなど怪我につながるものは、持ち込み禁止としている。衣装ケース、タンス、机、椅子、鏡台、家族の写真などを持って来られ、仏壇や遺影もある。馴染みの物に囲まれた配置がある。掃除は週1回職員が実施し、必要にあわせ適宜おこなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人様の行動の妨げになるものをできるだけ排除し、快適で自立した生活が送れるよう工夫している		